

政策実現に向け、市長が方針を示す

施政方針

※一部は、その後の現状にあわせています。
問い合わせ 秘書課 ☎552・5109



市長 さかい たかあき 酒井 隆明

都市から ワクワク農村へ

キャッチフレーズは「都市からワクワク農村へ」です。「幸せに安心して暮らせるのは、都市より農村だ、丹波篠山だ」と気付け、田園回帰の流れにあります。観光客も丹波篠山に住みたいと移住されてくる若い世代も増えてきました。ますます自然豊かで美しいまちづくりを進めるとともに子育てや住み良い環境に力を入れ、活性化をめざします。

さて、コロナの感染拡大が心配されますが、ワクチン接種や感染予防に万全を期し、克服できるよう市民あげて取り組みを進めます。

市役所の体制は女性の登用を進め、新しく女性部長2人、課長5人が誕生しました。組

織機構は、自然豊かで美しい農村環境を保全し、温暖化防止などにも取り組めるよう「環境みらい部」を新設。また、丹波篠山ブランドをさらにPRしていくため「ブランド戦略課」を、自治会やまちづくり地区を支援するため「地域振興課」を設置しました。

市の財政状況は、篠山再生計画に基づき、実質公債費比率17.2割と、市債発行に県の許可が不要となるまで改善しましたが、引き続き着実な取り組みを進めます。

いちばんの課題となっているのは、兵庫医科大学さまやま医療センターと岡本病院から、統合のうえ市立病院として運営することを提案されている医療体制づくりです。両

病院の利用状況、将来予測、経営分析などの調査に基づき、とり得る方策の検討を進めます。

また、シンボル事業として、「ワクワク農村未来プラン」を策定し、未来に向けて農村が維持していけるよう取り組みを始めます。さらに、子育ての充実とみんなが住み良いまちをめざします。マイ助産師により妊産婦への手厚いケアを実施し、出産支援金1人10万円の支給を継続します。遊具を備えた遊び場を整備したり、就学前の子どもたちが触れ合える「森のようちえん」を実施したりします。篠山チルドレンズミュージアムは、市民誰でも無料とするほか、各中学校に部活動推進員を配置し、できるだけ生徒が望む部活

動ができるよう支援します。地域福祉においては、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施をスタートさせます。また、障がいのある方や家族などの生活における相談や支援を行う「丹波篠山市障がい者相談支援センター」を開設します。公共交通では、神姫グリーンバス路線について、コミバスも含め上限運賃200円とします。

2月に市の黒大豆栽培が日本農業遺産に認定されました。農家の皆さんがさらに誇りを持って活躍されるよう支援するとともに、認定に当たり評価された農村景観、生物多様性に配慮した水路づくりなどに取り組みます。

さらに美しいまちづくりを

進めます。5月には河原町通りの無電柱化が完成し、これまで以上に歴史を感じるまちなみに刷新されました。JR篠山口駅周辺では、市の魅力が感じられるにぎわいとおもてなしの空間となる駅前創出に向けて検討を進めま

す。また、丹波篠山の気候風土、景観にマッチした「丹波篠山の家」の普及に取り組みのほか、魚道整備などふるさと川のづくりや、「麒麟の森」として、市民手づくりの森づくりを始めます。

観光については、昨年10

月だけでも58万人の方にお越しただき大変にぎわっており、女性に人気の旅行ガイド「ことりっづ」の丹波篠山版を作成し、全国で販売します。

そして、市内のさまざまな工芸を発信するとともに、市

内の企業や事業所がコロナを乗り越えるPR動画の製作を支援します。さらに、中森選手が入団した千葉ロッテマリーンズとスポンサーシップ協定を行い、丹波篠山デカンスイッチャーをはじめ、PRに努めます。また、オリンピック

の聖火リレー、バハマ、プエルトリコ、台湾のオリパラ選手と交流をします。これからも、ガラス張りの情報公開、分かりやすい市政を心掛け、積極的に市民の皆さんの意見を聞く場づくりに努めていきます。

教育行政の運営に向け、教育長が方針を示す

教育方針

問い合わせ 教育総務課 ☎552・5709

いま世界は、COVID-19(新型コロナウイルス感染症)によるパンデミックという深刻な危機に直面しており、私たちは感染拡大防止策を講じながら、「ワクワクン」や特効薬の開発に期待を寄せているところです。

さて、昨年9月、ユニセフの研究所がOECD(経済協

力開発機構)またはEU(欧州連合)に加盟する38カ国の子ども幸福度調査結果を公表しました。「身体的健康」「精神的幸福度」「スキル」の3つの分野中、日本の「身体的健康」は1位でした。子ども死亡率と先進国における栄養不良を表す肥満率が指標です。

一方、「精神的幸福度」は、若者15〜19歳の人口当たりの自殺者の多さと、15歳時点での生活満足度の低さから37位、ワースト2位でした。コロナ禍にあつて、ウイルス感染症を責めてしまう日本社会の風潮は、わが身を守ろうとする本能的なことかもしれませんが、他国で見られる光景のように、回復し退院した方を友人や近隣住民が温かく拍手で迎えられている姿を見る

と、精神的幸福度の低さは、私たち大人側のありようにあるのかもしれないと考えさせられます。

ちなみに、「スキル」は、数学・読解力で基礎的習熟度や「すぐに友達ができる」といった社会的スキルを身に付けている15歳の割合で27位でした。

このような社会状況の中、昨年4月、「未来の丹波篠山市の教育の創造」をめざして、教育研究所を開所しました。教育研究所は、①人間の本性や人間と社会との関係、②人間の乳幼児期・児童期・青年期といった発達の段階それぞれに時期に解決しておくべき課題や危機、③人間の「考え」「気持ち」「思考」のメカニズムと生きる力の基礎を伸ばす仕組み、④人間の発達成長は決

して学校教育のみに規定されるわけではないとの認識に立ち、家族集団の人間形成機能、子ども集団の人間形成機能、さらには地域文化から教育を考えると4つの視点を踏まえた機関です。先行的な研究成果を取り入れ、本市の実状に見合った教育施策を企画し、「展開に導いていけるよう、より努めていきます。

さらには、このコロナ危機で競争よりも協力、また、他者のために生きることが、自分のために生きることにもつながるといふ思いを一層強めました。市民一人一人が感動や生きる喜びにあふれた生涯学習社会の実現に向け、関係部局・機関との連携・協力を図りながら、丹波篠山の教育を推進していきます。

- 2 ▶ 13 特集
- 14 ▶ 15 街かどリポート
- 16 ▶ 17 コロナウイルス 感染症対策
- 18 ▶ 23 タウン トピックス
- 24 ▶ 29 市政 レイダー
- 30 ▶ 31 ささやまホット ステーション
- 32 ▶ 33 はぐくみ
- 34 ▶ 37 施設情報・相談
- 38 ▶ 43 インタビュー

当初予算

喫緊の大きな課題と向き合いながら、田舎の価値が見直されるアフターコロナの時代を見据え、丹波篠山の魅力を向上させ全国に発信するとともに、農都創造によるブランド価値のさらなる向上と、市民の皆さんの日々の暮らしの安心を確保していくための予算としています。

問い合わせ 財政課 ☎552-5114

令和3年度を象徴する事業

主な事業

シンボル事業・重要課題

新たな医療体制に向けて (910万円)

昨年、兵庫医科大学ささやま医療センターと医療法人社団「紀洋会」岡本病院から、両病院を統合し、公立病院などに形態を変えて事業を続ける計画案が市に提示されました。その提案は財政的な影響も大きいものであることから、今年度は両病院の統合に向け考え得る方策はどのようなものがあるか、他市の市立病院の経営状況と統合実施後の丹波篠山市の財政シミュレーションはどうか、といった点について研究します。

アフターコロナの農村回帰 (443万円)

「二拠点生活の体験モデルツアー」の支援を行います。また、本格的な移住前に、市内に滞在して住環境を確認したい方や家探し、職探しのために滞在する移住希望者を対象にしたお試し滞在支援金制度を新たにスタートさせ、多くの移住相談に的確に対応できる受け入れ態勢を整えます。

新型コロナウイルス感染症対策 (0円)



市民の皆さん、医療機関、行政が一丸となって新型コロナと戦う体制をつくりまします。

千葉ロッテマリーンズとのスポンサーシップ協定 (463万円)



市出身の中森俊介投手が2020プロ野球ドラフト会議で、千葉ロッテマリーンズから2位指名を受けました。そこで、千葉ロッテマリーンズとスポンサーシップ協定を締結し、市の魅力を発信することを目的に、千葉ロッテマリーンズの主催試合において、(仮称)「日本遺産のまち丹波篠山市デカンショスペシャルナイター」を実施します。

東京2020オリンピック聖火リレー (1,519万円)

東京2020オリンピック聖火リレーが兵庫県の最終地として丹波篠山市にやってきます。篠山中学校をスタートし、ゴール地の篠山城跡三の丸広場ではセレブレーションイベントを盛大に実施します。

そのほか、このような事業に取り組みます

- 丹波篠山版SDGsの推進 (0円)
 - 気候非常事態宣言 (1652万円)
- SDGsは、国連が提唱する「誰一人取り残さない」社会の実現をめざす17の目標です。丹波篠山市でも第3次総合計画の前期基本計画で、施策の目標と17の目標をリンクさせ、今後はその計画的な執行と進捗管理を部や課の枠を超えて取り組んでいきます。

東京2020オリンピック・パラリンピックホストタウン (1,473万円)

中南米のバハマの陸上競技、パラリンピックでは中南米のプエルトリコのパラ柔道、チャイニーズタイペイのパラ卓球選手を招聘し、丹波篠山市を担う子どもたちとトップアスリートが触れ合うスポーツ交流、文化交流を実施します。



農都丹波篠山のブランドをより強固にする 主な事業

丹波篠山の農都創造

環境創造型農業と農村づくり (2,242万円)

コンクリート水路を生態系に配慮した工法により改修するモデル事業を西本荘地区と連携して取り組みます。また、住吉川において、魚類などの遡上を阻害していると考えられる落差工への魚道整備を引き続き行い、黒岡川の落差工について、生き物調査と魚道整備を行います。

さらに、自然環境に配慮した「農都のめぐみ米」の取り組みを多くの農家に呼び掛け、収穫したお米を「農都のめぐみ米」として消費者へPRし、販売促進につながるよう取り組みます。

丹波篠山の家普及促進 (834万円)

市では、丹波篠山の気候風土・文化にあった意匠や色彩、材料などの基準に適合した住宅を「丹波篠山の家」として普及を図る取り組みを進めてきました。今年度は、モデルハウスを活用した現地案内会やPRイベントを市建築組合と連携して行います。



麒麟の森づくり事業 (78万円)

高城山の西の県有環境林である「小多田特定用地」において、「麒麟の森」と称し、市民みんなできえ、学べる森づくりに取り組みます。

日本農業遺産 (597万円)

今年度は、この挑戦で得たものを生かして、市民の誇りの醸成や生産意欲の向上を進め、これを未来に受け継ぎ、これからも丹波黒の日本一の産地であり続けるよう取り組みを進めます。



そのほか、このような事業に取り組みます

- ワクワク農村未来プラン (678万円)
- 有書鳥獣 (7329万円)



丹波篠山の魅力向上

魅力ある景観形成 (413万円)

平成29年度から3年間で実施した「景観まちづくり刷新支援事業」で、河原町通りは電線の撤去が完了し、3月から電柱の撤去工事も始まりましました。5月には電柱の撤去が終了し、電柱のない妻入り商家の町並みは、今まで以上に歴史を感じる町並みに刷新されます。



丹波篠山観光情報の効果的な発信 (776万円)

女性に大人気の旅行ガイド「ことりっぷ」の丹波篠山版を作成し、全国の書店で販売します。また、テレビ局やラジオ局、番組制作会社などに新スポットや特産物などを情報提供しながら積極的なPRを行います。

観光宿泊魅力向上 (145万円)

春秋の行楽シーズンにデカンショ節や踊りなどを披露し、夜の丹波篠山の魅力を向上させ、宿泊客の増加をめざします。さらに、観光客の滞在時間の延長や宿泊客の増加につなげるため早朝や夜間に行うイベントなどへの支援を行います。



市内工芸家への支援 (151万円)

市内に居住し、生業とする意思をもって丹波焼や王地山焼に関する知識や技術を取得する30歳以下の工芸家に対して、家賃の一部を補助し、工芸家の誘致促進と育成につなげていきます。

協働ではじめる環境・まち・未来づくり事業 (138万円)

環境問題解決のために、市民・事業者・NPO・行政などの多様な主体が課題設定や目標設定から、みんな考える「環境まちづくり座談会」を複数回開催し、「協働プロジェクト」の結成を促進します。

その他

中学校部活動指導員推進員 (2,282万円)

今年度は「部活動指導員」を増員するとともに、各中学校に1人の「部活動推進員」を配置し、教職員の負担軽減および生徒の安全に配慮した部活動の充実に取り組めます。

地元就職の促進と人材確保 (119万円)

新たに市内企業の社長や地元高校を卒業した従業員を講師に迎えて、高校のキャリア教育を支援します。

幼稚園における木製園児用イスの導入 (88万円)

市内産木材を用いた木製園児用イスを、今年度から3カ年計画で全幼稚園に導入します。

そのほか、このような事業に取り組めます

- JR篠山口駅周辺活性化 (10万円)
- 明智光秀ゆかりの山城の紹介映像作成 (50万円)

丹波篠山の暮らし



My助産師制度 (1,308万円)

令和2年8月1日からMy助産師制度が始まり、子育て世代包括支援センターふたば(丹南健康福祉センター内)に「My助産師ステーション」を開設しました。「My助産師制度」は妊婦に寄り添い、産前産後のケアを行うものです。これは全国でも初めての取り組みです。今年度も引き続き取り組みます。

出産支援金 (2,300万円)



市外医療機関受診のための交通費や育児用品などの購入費として、1人当たり10万円の出産支援金についても引き続き行っていきます。

地域産科医療 (1,500万円)

令和2年度に、市内で唯一の分娩医療機関であるタマル産婦人科と5年間の連携協定を結びました。タマル産婦人科と協力、連携し、安心して出産、子育てしやすいまちとなるよう、年額1,500万円の補助金を交付します。



おいでよささ子遊具設置事業 (894万円)

子育て世代の親子が気軽に出かけられ、子どもをのびのびと遊ばせることができる環境を整備するため、今年度からまちづくり地区ごとに屋外遊具を備えた子どもの遊び場を設置します。今年度は福住、後川、城南地区に遊具を設置します。



森のようちえん事業 (93万円)

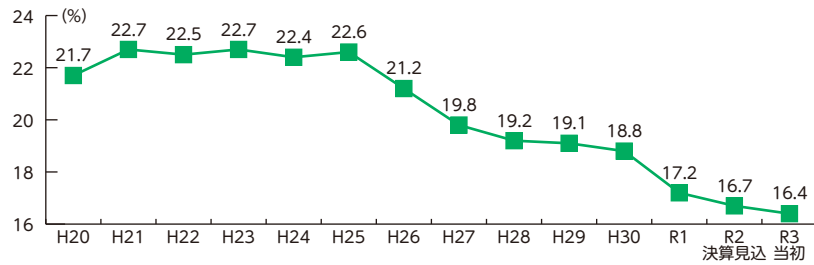
在宅で育児をしている子育て家庭の子どもたちが同年齢の子どもとふれ合う機会を増やすため、市内の屋外公園を中心に自然の中でさまざまな体験をしてもらう「丹波ささやま森のようちえん」を実施します。

そのほか、このような事業に取り組めます

- 子どもの食の応援事業 (290万円)
- 日本一の学校給食レシピ本 (138万円)

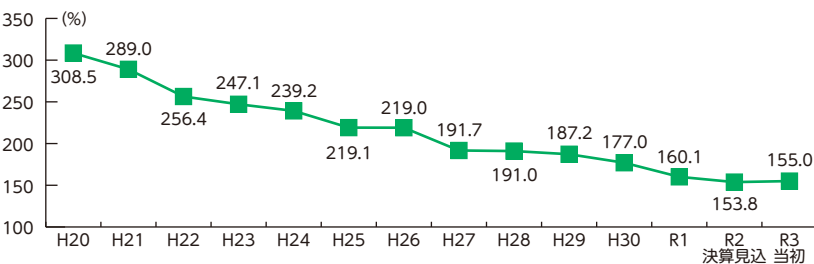
預かり保育施設「こどものおしろ」の開設 (661万円)

幼稚園の教育時間終了後、家庭において園児の保育が困難な場合、市内6カ所で預かり保育を行っています。これまで預かり保育施設がなかった篠山・たまみず・岡野幼稚園区において、4月から新たに「こどものおしろ」を開設することで、市内すべての幼稚園を対象に預かり保育を実施します。



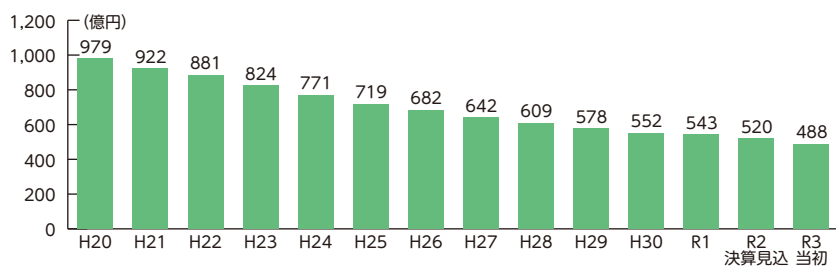
実質公債費比率

市の借入金の返済額の大きさを、市の財政規模に対する割合(3カ年平均)で表したものです。18%までが健全化の目安とされています。



将来負担比率

市の財政規模に対する、将来支払う可能性がある負債の比率。350%以上で早期の健全化を求められます。



市債残高(全会計)

市債残高とは、建設事業を行うため、国や金融機関から借り入れ、今後支払う必要があるお金のことです。

財政指標で見る丹波篠山市の姿

用語の解説

【歳入】

- 市税 市民の皆さんから納めていただくお金
- 地方譲与税 国の税金から、一定の基準で配分されるお金
- 地方交付税 地方自治体が一定水準の行政サービスを提供できるように、国から交付されるお金
- 国庫・県支出金 市が行う仕事に対し、国や県から支給されるお金
- 繰入金 会計間や基金(貯金)などから、資金を受け入れるときのお金
- 諸収入 市税の延滞金、預金利子、雑入などのお金

【歳出】

- 総務費 行政全般の事務にお金
- 民生費 福祉の増進にお金
- 衛生費 市民の皆さんの健康づくりや、ごみ処理などにお金
- 公債費 市の借金を返済するお金
- 諸支出金 基金の積み立てにお金

令和3年度

予算の概要をお知らせします

予算総額 414億9,396万円

	前年度比
一般会計	222億3,000万円(0.5%)
特別会計	108億4,513万円(7.1%)
公営企業会計	84億1,883万円(△5.5%)

今年度の予算のポイント

令和3年度の一般会計の予算規模は222億3,000万円。新型コロナウイルス感染症ワクチン接種事業や、障害者総合支援法給付事業が増加したことで、前年度予算と比べると1億1,000万円の増額となりました。また、一般会計・特別会計・企業会計を合わせた予算総額は414億9,396万円。前年度に比べると3億4,263万円の増額となりました。

令和3年度 一般会計、特別会計、企業会計予算額 (単位：千円、%)

会計名	令和3年度当初予算額	令和2年度当初予算額	増減額	前年度対比
一般会計	22,230,000	22,120,000	110,000	0.5
国民健康保険特別会計	5,176,079	4,895,920	280,159	5.7
事業勘定	4,946,237	4,659,423	286,814	6.2
直営診療所勘定	229,842	236,497	△6,655	△2.8
後期高齢者医療特別会計	688,097	687,446	651	0.1
介護保険特別会計	4,980,957	4,541,247	439,710	9.7
介護保険事業勘定	4,968,456	4,531,059	437,397	9.7
介護サービス事業勘定	12,501	10,188	2,313	22.7
特別会計	10,845,133	10,124,613	720,520	7.1
水道事業会計	3,173,529	3,017,959	155,570	5.2
下水道事業会計	5,245,304	5,888,760	△643,456	△10.9
企業会計	8,418,833	8,906,719	△487,886	△5.5
合計	41,493,966	41,151,332	342,634	0.8

歳入

市税	48億1,192万円	前年度比 ▲1億4,163万円	21.6%
地方譲与税・交付金など	13億3,006万円	前年度比 ▲1億9,860万円	6.0%
地方交付税	83億7,400万円	前年度比 +3億4,800万円	37.7%
分担金及び負担金、使用料及び手数料	7億3,563万円	前年度比 +2,063万円	
国庫支出金	19億8,885万円	前年度比 +2億4,450万円	
県支出金	16億4,794万円	前年度比 +6,831万円	3.3%
繰入金	13億2,119万円	前年度比 +4,411万円	9.0%
市債	13億6,709万円	前年度比 ▲2億2,394万円	7.4%
財産収入、寄附金、繰越金、諸収入	6億5,332万円	前年度比 ▲5,139万円	5.9%
			6.2%
			2.9%

歳出

総務費	22億5,454万円	前年度比 ▲1億8,383万円	10.1%
民生費	64億8,968万円	前年度比 +1億1,409万円	29.2%
衛生費	24億3,501万円	前年度比 +2億5,922万円	
農林水産業費	12億3,477万円	前年度比 ▲6億6,568万円	11.0%
土木費	27億7,971万円	前年度比 +6億7,101万円	5.6%
消防費	9億170万円	前年度比 +1,809万円	12.5%
教育費	31億8,696万円	前年度比 ▲9,495万円	4.1%
公債費	20億3,430万円	前年度比 +3,149万円	14.3%
議会費・労働費・商工費・諸支出金・予備費	9億1,333万円	前年度比 ▲3,945万円	9.1%
			4.1%

教育長就任のごあいさつ



丹波篠山市教育長 **丹後政俊**

【プロフィール】
任期(1期)令和3年4月1日から5月14日まで。
(2期)令和3年5月15日から令和6年5月14日まで。
昭和32年6月1日生まれ、63歳。篠山鳳鳴高等学校、神戸大学を卒業し、兵庫教育大学大学院修士課程修了。昭和56年に兵庫県公立高等学校教諭に採用。篠山東雲、三田西陵高等学校で校長を務め、平成30年に退職。令和2年4月から令和3年3月まで丹波篠山市議会議員。

昨年の市議選で「丹波篠山市を絶(こ)うち(こ)う(超)元(元)氣」というスローガンを掲げて当選させていただきましたが、今春、職を辞し、このたび、教育長として市政に携わらせていただきます。議員としての活動を期待されていた皆さんには大変申し訳ないですが、今後は、教育を通して本市を「絶(こ)うち(こ)う(超)元(元)氣」にしていく覚悟です。

子ども一人一人に寄り添う丁寧な指導で、子どもたちに未来を逞しく切り拓く「生きる力」を育成し、「子育てするならやっぱり丹波篠山」と本市の移住定住促進や活性化につなげていきたいと思っております。

ささやま冒険教育の指導で学んだ「一歩踏み出す勇氣」、ふるさと教育やあいさつ運動を通して、「郷土愛」や「良好な人間関係をつくる力」も伸ばしていきたいと考えています。

また、私はこれまで不登校支援施設や特別支援学校で勤務した経験があり、さまざま課題やしんどさを抱える一人一人の子どもに寄り添う大切さを実感しています。この経験を生かし「誰一人も取り残さない教育」「あたたかい学校づくり」に努め、何よりも子どもの命を大切に「命が一番の教育」を進めていきたいと考えています。

私には、「学校園は子どもたちのためにある」という思いが強いですので、「子どもが主役」「子どもの中へ」を合言葉に、子どもたちの思いをしっかり受けとめ、施策に反映していきたいと考えています。

皆さんのご理解と協力をよろしくお願いいたします。

前川修哉教育長が退任



前川修哉氏が令和3年3月31日付で市教育長を退任しました。
前川氏は、平成23年4月1日に市教育長に就任。以後10年間にわたり、市の教育行政に多大な貢献をされました。

副市長就任のごあいさつ

丹波篠山市副市長 **堀井宏之**



【プロフィール】
任期は令和3年4月1日から令和7年3月31日まで。
昭和37年1月22日生まれ、59歳。篠山鳳鳴高等学校、大阪経済大学を卒業後、昭和59年に篠山町役場に入庁。政策部長、農都創造部長、行政経営部長、企画総務部長などを歴任。

酒井市長からご指名を受け、3月25日に市議会の議員の皆さまの同意をいただき、4月1日から副市長に就任させていただきました。

もとより、その器でもなく微力ではありますが、改めて、「前向きな気持ち」を持ってその使命を果たしていきたいと思っております。

これまで、職員として財政や企画関係の業務を中心に37年間勤務してきました。特に、酒井市長のもとでは、篠山再生計画の策定と着実な実行、兵庫医科大学篠山病院の存続交渉とささやま医療センターの建設支援、ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟、神戸大学との地域連携事業などに取り組んでまいりました。

「こつした行政経験を生かして、市民の皆さんの目線に立つて努めていきたいと考えています。」

今年度から始まります「丹波篠山市第3次総合計画」の着実な推進や施政方針「都市からワクワク農村へ」をはじめ、当面の行政課題の解決に、酒井市長のリーダーシップのもと、職員一人一人と力を合わせ、その思いを大切にして、誠心誠意取り組んでいきます。

市民の皆さんのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

平野齊副市長が退任



平野齊氏が令和3年3月31日付で市副市長を退任しました。
平野氏は、平成23年4月1日に市副市長に就任。以後10年間にわたり、酒井市長を支え、市政の発展のために尽力されました。

4月から

市民センター図書コーナーの
運営が変わりました！

図書館ビジョンの計画に沿って運営の見直しを図り、令和3年度から中央図書館主体の運営に変わりました！

たくさんの方に利用いただけるように、開館日を拡充し、図書館サービスも充実させました。



開館時間 10:00～18:00 (日曜日・祝日は17:00)

開館曜日 火～日曜日

休館日 月曜日(祝日の場合は開館、次の平日を休館)・年末年始・資料特別整理期間・資料整理日(毎月末。月末が土・日・月の場合は次の平日を休館)

図書館サービスを拡充しました！

開館時間中、中央図書館と同様の図書館サービスを提供します。

図書貸し出しの延長など、カウンターで対応しますので、お気軽にお声かけください。

- ① 利用者カード新規登録・再発行
- ② 予約本の受け取り
- ③ 予約・リクエストの申し込み
- ④ レファレンス(図書に関する調査相談)

図書を充実させ、さまざまなイベントも開催していきます！

- ① 中央図書館の本をたくさん配置！
- ② 図書コーナーだけのイベントやおはなし会を開催！！

親子ふれあいタイム

お子さん連れの方にも利用していただきやすいように、親子ふれあいタイムという日を設けています。

- とき** 第1・第3木曜日
- ところ** 図書コーナー おはなしのへや
- 時間** 10:00～12:00

☆11時からは、ボランティア有志によるおはなし会を実施しています。

※必ず保護者同伴でお子さんから目を離さないようにご利用ください。



本の郷ブックサポーターの皆さんが活躍しています！

「本の郷ブックサポーター」の皆さん ありがとうございました！



いつもあたたかい笑顔とあいさつで利用者対応をしていただきました

12年間の活動

市民センター図書コーナー(愛称:本の郷)は、平成21年4月1日から、本の郷ブックサポーターの皆さんのご協力により運営をしてきました。ブックサポーターの皆さんには、図書コーナー開館中の自動貸出返却装置のサポート、書架案内、書架整理など、さまざまな図書館業務を支援していただきました。

第2回・第3回市民センターまつりに参加された際には、家庭にある古本や日用品を持ち寄り「古本市と日用品バザー」を出店され、収益金で図書を購入し、図書コーナーへ寄贈いただきました。平成26年2月からは、図書館と各種ボランティア団体で「これからの市民センター図書コーナーのあり方検討会」を計



市民センターまつり「古本市と日用品バザー」

13回開催し、特色のある図書コーナーにするため、子育て支援に重点を置いた図書の充実や、館内レイアウトの変更などを行っていただきました。また、同年8月から、親子ふれあいタイムの「おはなし会」が始まりました。親子ふれあいタイムは、子育て世代の交流の場としておはなしのへやを開放し、ボランティア有志の皆さんによるおはなし会や手遊び、わらべうたなどを行っています。利用者の皆さんに大変好評です。ブックサポーターの皆さんの豊富な知識と技能により、本の修理作業や館内の壁面装飾など、多彩にご活躍いただきました。12年間の間、市民に愛される図書コーナーづくりにご尽力いただき、本当にありがとうございました。



館内の壁面装飾



12年間の活動に感謝を込めて、市から感謝状を贈呈しました。

これからも、ブックサポーターの皆さんが築かれた「市民と共に歩む」図書コーナーづくりの意思を受け継ぎ、市民の皆さんが利用しやすい雰囲気づくりと図書の充実に努めていきます。



2▶13 特集
14▶15 街かどリポート
16▶17 コロナウイルス感染症対策
18▶23 タウンヒックス
24▶29 市政リーダー
30▶31 ささやまホットステーション
32▶33 はぐくみ
34▶37 施設情報
38▶43 インフォメーション